

きりぎりすのそと

911.3

才

玄乎の如く... 嫌様か丸... 嫌様か丸... 嫌様か丸...

新
改
正

成業大成

月 心王の... 操 己... 操 己... 操 己...

序

在人の... 在人の... 在人の... 在人の... 在人の... 在人の... 在人の... 在人の... 在人の... 在人の...

⑤ 下の句ふとあ ⑤丁 ⑥ 行くときり ⑥丁

⑦ 又ゆとまり ⑦丁 ⑦ ときてふと ⑦丁

⑧ 云のこすてふと ⑧丁 ⑧ ち極字はまり ⑧丁

⑨ 治定とをの字 ⑨丁 ⑨ ちまらん ⑨丁

⑩ 治定のう ⑩丁 ⑩ ち又地又 ⑩丁

⑪ 公字は付所 ⑪丁 ⑪ ち一有二句感句 ⑪丁

⑫ 指合の沙汰 ⑫丁 ⑫ 同字別吟 ⑫丁

⑬ 白數并去嫌 ⑬丁 ⑬ 神祇之詞 ⑬丁

⑭ 非神祇詞 ⑭丁 ⑭ 尺教之詞 ⑭丁

⑮ 非尺教之詞 ⑮丁 ⑮ 戀之詞 ⑮丁

⑯ 非戀詞 ⑯丁 ⑯ 無常之詞 ⑯丁

⑰ 速懐之詞 ⑰丁 ⑰ 非速懐詞 ⑰丁

⑱ 人倫之詞 ⑱丁 ⑱ 非人倫詞 ⑱丁

⑲ 居所之詞 ⑲丁 ⑲ 非居所詞 ⑲丁

⑳ 夜分の詞 ⑳丁 ⑳ 非夜分詞 ⑳丁

㉑ 山類之詞 ㉑丁 ㉑ 非山類詞 ㉑丁

㉒ 水邊之詞 ㉒丁 ㉒ 非水邊詞 ㉒丁

㉓ 四季之詞 ㉓丁 ㉓ 面句并裏順筆句 ㉓丁

㉔ 百韻并四句歌仙 ㉔丁 ㉔ 臨席覚悟 ㉔丁

㉕ 執筆法様 ㉕丁

○さうまうひ 下、二目 ○まづぐひ文槩 下、全亭

漢和式

- ① 第唱向之事 二丁目
- ② 二四不同之事 一丁
- ③ 四字一平之事 二丁
- ④ 避下三連之事 二丁
- ⑤ 平仄起之事 二丁
- ⑥ 漢和座法式之事 二丁
- ⑦ 對向之事 五丁
- ⑧ 假名書之事 六丁
- ⑨ 連綿字之事 七丁
- ⑩ 二物之事 八丁
- ⑪ 三物之事 九丁
- ⑫ 底返之事 九丁
- ⑬ 朱引之事 十丁
- ⑭ 文字用の操筆 十丁
- ⑮ 歌書文字之事 十丁
- ⑯ 四季文字の事 十丁

① 誦諧之事

眞義抄云誦書者借物之借ハ物多ク借ハ物不取也
 史記滑稽傳云考物云滑稽云酒也之云云
 不取物者滑稽也吐酒也○誦諧乃字ハリ是也
 今案ハ滑稽ハ道不ノ物トシテ有るをハ行フもの之ハ能ハ
 五道ニ有ラズ一物ハ多ク多クトシテ有る故又是ハ滑稽
 ニ准ズル也其利ハ多ク有るもの言者トシテハ
 毛水母ノハ有る也或ハ程云ハ一物多ク有る

此中又みよこの詞又ありをねるべし

八雲御抄云或説曰能備有極之能備二能備三能備四備
備五能備一能一六謎字七空賦八鄙後九能言一能云
或義能備六折ものもをに能之能備六能備云折引く心也
能備六能字なりまは乃之能備心ありまは字を能備よす
りて能之能備能備の折引くことあり其心奥義能備は
能字を能くのやれ之空賦八向又説て実を能く能也
鄙後九のやき能き之能云能備六能備又ありやれ
之能能之能説又ありを火と能とまのけて能能ると能

三能諧六作

心弁説 みよ人れ能る能のよや秋の月

詞弁説 乃之付よみ代より代やがり繩 可全

心利口 肩をまか右素おさういをもん 正芳

利利口 ほもあまなけ能きましく 利冬

公利 小傾城ゆきてなふらん年ね暮 其角

利利 系法も花見に能小ハ七去法 とも成

右六作引きいつても奥義抄又見えありん
能備のよもは六作をいつる事あり我う好くこよ
ありて他をよし能きまると也

三 俳諧六義

風 ハ雲雨抄又風ハウハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

志はじかくれぬらんよ對して

先いそし梅を公乃をさあらし ハ云雨抄

賦 ハ雲雨抄賦ハかうハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

梅の葉まきりこれ雪のどろけ ハ云雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

比 ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

いさめるやんのかつら ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

真 ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

盆のまじ海月ハハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

雅 ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

ままぬけ ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

頌 ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

ちやく ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

四 俳諧諸部發

神祇 ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

釈教 ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

虫 ハ雲雨抄比まきりハ奇クモ雲ハ花ハ只風といハおハヒ

花 芳樹

無常 ムジョウ

表傷 ヒヤウキョウ

辞世 ジセ

進善 シンゼン

懐旧 クワイキウ

述懐 シュツクワイ

伎移 キシ

名取 ナトリ

名物 ナモノ

うき事れおしふ事ん杖の俤

かく斗かる波やぼく、のうら

我うとくも四十四花の奉ら

人の子夫、いよ

やこそ夜まんぢう、そもも道とても

舟長の基所、や

よりや、おしゆら、もら、ぼく、

為、の、力、や、お、く、て、

頂、の、三、男、を、く、ま、は、

落、名、荷、果、熟、く、く、

山、吹、や、さ、く、て、

か、く、も、や、お、お、

晚山

磬水

和及

方山

俵家

軒栞

知足

鬼貫

尔云

銭別 ゼンベツ

御行 ミヨウ

法瀝 ホウシ

息藏 ソクゾウ

変 ヘン

難 ナン

文字 モンジ

古事 コト

本紙 ホンシ

み、の、は、は、

み、ら、お、お、

月、花、は、

あ、ら、う、

お、う、れ、

親、ハ、

破、を、

吾、を、

散艇

暮四

と夜成

全

哲解

正由

子春

素吟

成之

詩

子妹乃まほしむまこふ月

巨海

歌

たははう〜うららひ〜これらたの〜

長之

世の中よふらちこそおれおのり

離雲

世の中よふらちこそおれおのり

常規

謡

妹ハもの、月夜馬ハつとねく

鬼貫

小奇

ゆく存よあかく若どま〜せよ

似空

狂云

勢ふまのちう流乃あ車

一幽

題

比良三上雲雨〜つとせ後れ橋

七をを

題

井此葉のみされ安〜や雲れくれ

かく

仁心

きやうあれとておれなき出乃と

松つ

願望

晴をひて半空にうや雲乃存

七圭

秀句

何らう〜かろうなりぬ酒

正由

云々

乃とあむはうす雲れ如れ乃ひひ

貞隆

た〜

々乃月綿〜扱〜る柔端〜糸

翠堂

見〜

芝ふ尾此一ゆ巴や雲乃・犬

鞭石

云々

はくまれて中乃ひひる蓮〜風

中

重羽

住者乃とま〜く凍〜三〜月

鉄筋

たれ

鶯が毒乃とま〜くふ毒を〜

保つ

心非強

神非強

心細能強

寝き強

老る強

切る強

猶る強

感懐強

強有強

心非強 ちひして地ありき 柳一うら

神非強 猶乃ごきゆりび乃貝や斤サロハ

心細能強 間強をら一やもかんれ小ウラごき

寝き強 月強をら柳ウラれ心あはるま

老る強 うたぬやんぬれ松かろ

切る強 傘エが目 和を星子向う家

猶る強 曇よよよて三月七日八日ウレ

感懐強 乱ぶ男に社風定一 穂二人

強有強 表のあともあくとよこし子ウレ

戈丸

琴風

鷺助

素堂

臣雪

僕石

信徳

松尾

日

いんじん
かそのち

あめんあめん

あふ字と下

河乃像よ

火ももあ

あもーろ

あめんあめん 燐き葉の石南よ松か次 燐き

あめんあめん 上童もよ松乃ほくき

あめんあめん 毒よほき松乃ほくき 柳が

あめんあめん 星は七々牛よ 蠅

あめんあめん 地もまきほくき 燐き

あめんあめん 燐き

あめんあめん 云々月ハ柳ホク

あめんあめん 本巻乃ほくき

あめんあめん 柳とられ花

調柳

西吟

竹亭

常規

道柯

如泉

不角

琴凡

行方

そよよ成てあはれくらやとふゆ
嗚きくさくはあはれくらやとふゆ
錯乃もて蓮さうへん幸あれ
蓮執乃せとい中やうき蓮
六月や半の雲とく嵐山
かき草や透れ槽と地と捨小舩
麦冷し宿と久とつう終り
蓮池よ生れてきれ蛙の
藥乃経とあ人志と終り

二水
如扇
目恍
勿水
と茂
蒙水
荷号
言水
和及

ぬるくたぐさし色坊
三芳野の花はほくひてふあひ

あつくかひんあつあ
あんやきさあ
花さうき風や柳りまの志

五俳諧三十体

幽雲俣 日よまのひあやもまさう
行雲 天もむらうさうあ雲けみん足

廻雷 月風れ相もあま月ひらう

縹鶴俣 半の雲さうへんむさうあへん

名月や雲乃うへんまの影

作者未如

越人
梅盛

玄圃
凡兆
聖鳥
其角

遠白

月乃必を呼るる聲や天付丁

立砂

遠白

嫁よまむ水すははや後乃城

極更

遠白

世よまて道踏あゝかろぶり

友九

物象

菊はぬ母乃を世世傳へまきこ

勿水

不心

花乃中を逢はと聲う浅草う

も浅

理世

嬌凡乃吹まろりる人老良

松了

狂民

山中や菊はもね下湯は白ひ

も浅

至極

蒼鳥もて鶯竹まろりる草

晨風

麗体

ちりや祝と乃を所帯れり人

暮四

存直

あゝ雲とくちとまき山あり物は雲

竹亭

花麗

つらつらわらぬのむれり

常友

木作

里よりそ夕をね乃さうりる風

碧

竹作

元日や菊はゆりり花を力こむ

玄来

却可

唐橋乃春はむらりねりあそ

もを

却可

乞つくとくろりむ乃奇り乃山

貞室

振群

都丹よりあろそ思案あろりる

来山

写古

たつとて入雲より来れりるさか

もを

面白

もを

一鳥

鳥乃三足又成て夕うか

三圭

新曲

松崎也日なりとの有りれもせ

維舟

豊林

よくわん華花咲垣根りか

三圭

尺様倅

むりにすす靴さやうり山さう

心重

下倅倅

富士よ八目を衣條やまふれ月

其角

狂心狂

何をそ皮岸乃八日人たり

鬼貫

強力

本を伐て投物さうやま乃月

物水

(三) 諷諧大意

此指乃白とり系以志取くつりのすの今右乃保と臨

りて用也一此らあ河のひのりあ知ゆさうちや

とて網あを那控るるべしゆく投て續字活能造

又連此两用乃初とつてを或ハ九帳屏風詩はそと

り系此連しとさう此表方とを用也但し是う

とりのめも蝶菊やの其の他あつてはさうた方う

あつて人し結ふ他り歌う流さるる云葉ありやとを

連又佐例をくハ俳句のほろあつて人し或たうき

心をのふ家とたふ心法ぶる水とびとんて水あつて

うり事一字此云をうひく人あうりまうりまも

あまのいぬへ此一定と其の由奥の連なるをのり
つひにわらわさるるまきしぬ泥とせしむはしん
又連乃面くしつせりるつゝ網と船乃面く
かしきもの百韻は為入の網とも百段は用ひぬき葉
よましくまの^{カハ}網本遠^{サキ}回^キ獲乃^{タツギ}取きもの網と
かしくつひにまの船も用ひくそ但けまきひんま
かきつて能よあしづも多^ホゆかし又是れ若くは
佐例なる由は立入もあつたを

早苗やる竹田乃里行ほくくおす

舟のよき是は竹田に都て誘ふる他例もなれぬ佐
例あつても其所由つて眼着よ見をせよも是れ
急なむまははくしつひもあつた其のみなりて連なる
を感^キきしつひに成て他例もた地取^{キリ}出^テる船乃面
いふづくせよは船借といふも佐者たは格ふつた也
雲とあつくむくそみくぬ若野心

雲はまきくたりてそそ白雲と故人乃尺まくれ
つゝ船なれはつむははくしつひ^{カハ}取^キてきて雲といふ
船は地ありし格のまは^{カハ}形^{カハ}六打^{カハ}する如^{カハ}地云と

つうむくぬら荒在れ鶴取死

又

虎は尾がまうらうりし為堂

お毒やばひのまうらうりし為堂

右れ白きものぬらふ等取と乃れくくや梅死

ハ鶴取花かかひの荒在れ食乃夜ととりとりゆ

虎は毒を毒乃白とまうらうりし為堂

らうりしとらひ常くぬらふぬらふぬらふ

此者れらうりし秋ある所ともみしとまうらうりし為堂

乃花れ人の花也あらしぬはとむ白とらひひもく

はもくはらふ花を花取し半ととてえし作るはまあれと

のうらうをそのもていり

たふややうりてりし乃出所

縮着あやとらひてりし乃出所

て終ハ初乃いあるとらうとらうとらうは物取かあし

らうら母等取れあかあり母らうりし不易其意而造

其語謂之換骨はとらひかまひひらん

子れ母らうりしとらひりし道りし小使かり

は門を躍し中をすのりかた

こたふと心かたし羽若別乃物をも規操其意形
容之謂之棄胎はとりたはりしくやゆらん

⑤ 爰の切字

治之氣

薄曇りなきをたれた林哉

信徳

櫻が帯乃をたれぬ中て

兼堂

あひだ

蝶より下はなきをたれぬ中

湖春

まの字をた
てきうらま

まの字をたてきうらま

林下

まの字

霜はももやとまの字をた

一言

なぐもが初雷けいひり

知足

かたき

尺ありあふは代もつる若さう

信正

りり

こまのりりゆ乃若さう秋乃たれ

一鉄

木のこたれ果は有けり海のとと

言水

りり

植のりり兼麻され乃たれつをこ

桃雨

らむ

それくも東向人月の暮

玄衣

せとさる
せとさる

都らん小桶は銚瓶のりり

高政

独乃るあはくるとん杜あ

周也

風をたれかたしをたれひり

如琴

和之

荷翠

竹亭

山川

桐葉

野水

文鏡

竹翳

東海

大りしれ水乃人々をさるるあり

いさしきものさるるあり不極の雲

さるるものさるるありそわたりあり

さるるものさるるありひさきき

本海 稜雲 ニラダ ミキ ミキ ミキ

冬うす人は舟 未春 ミキ ミキ ミキ

羅も析 ミキ ミキ ミキ ミキ

花むく ミキ ミキ ミキ ミキ

何もの ミキ ミキ ミキ ミキ

常雄

松笛

土芝

軒柳

通運

方山

嵐若

西文

意中

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

花宵て大りし ミキ ミキ ミキ ミキ

りり ミキ ミキ ミキ ミキ

か あ	傾城の親みとが あ他乃	此 及
こ い	信長乃のり あ月	古根
井 け	菊乃西を根 あ草	如泉
哉 が よ	うら あ聖	一水
や ハ	極楽 あ花	富元
ろ ろ	く あ乃	唐木
し き	され あ菴	芭蕉
ハ ヤ	白魚 あれ	
あ り	衆 あ	鬼黄

い ろ よ	扇 あ乃	千 形
い づ こ	森 あ乃	龜 林
い づ と	獲 あ乃	正 義
い づ く	行 あ乃	昌 維
い づ と	篠 あ乃	周 竹
い づ と	い づ と	荷 翠
い づ と	い づ と	鞭 石
い づ と	い づ と	松 翠

や

一やうな牡丹乃念はあつてさ
 一やうなやみそんを賣はるる
 水とや蜂を産めぬく
 花をれやおよすく人もかぬ人
 竜虎やとまりのりて初四雨
 白雲乃そのや月おすれ
 家よみふちうやかくて菊島
 乃る花も残るるとらんや柳の
 如生

下知

よ
 う
 へ
 あ
 ち
 う
 ぶ
 て
 せ
 め

うらふとさうさん見よ竹うぬ
 心ゆくを炭電流くれ若野山
 妙子みれうつをかきのぬけさ
 常位とぬすまひ多麻のよ
 ちく決はときうりかぬむし同
 けおてゆかまをぬりぞゆかぬか
 うとにすてむとらゆか人代仁王門
 西ひあつた廓ノルをぬかぬあり
 唐詩乃賣みあつめかくまぬ
 素
 竹翁
 竹亭
 彫堂
 道柯
 如泉
 正時
 我思
 慈林

れあきしひがしー又しひうて切字に用ひるすつ

俱南風しひがきとふまひぬも一ゆぬゆり仍思^ス

二字切 目と若ぬくやふしんせ女七夕 風虎

ほも一ゆ突ととく人ニツ 星 風山

三字切 うごくたし何乃まもゆ梅乃花 貞室

○六とほり一乃切字

茹^{ヒキ}西木ハこととも踏と花乃雷 玉雷

葉^{ワラ}ようく福乃ぬゆし門の妻 一春

○とよ切字省て下と哉留

煤^スやしくゆられ京乃まれば 梅洞

傳よふ後とまする五文字をれとよ切字省ても然とせう也

○り留

存多の茶屋もむる人お成よりの 可全

初夜と心ゆりゆそん煉火成よりの 来心

傳よふ七文字の依とよと押とよハなりと若守程と更直

○三名切

同母をたれおちかそくおれ初鑑^{カサ} 素堂

三處切ともしり

○大ゆり

うらまて天竺系_ゝの巻なり一先

虎海

うらまて巻なり一巻なりなり也

○玄舟切

鴨こらぬ_二ち_一馬や_レゆ_レん

林園

ね_レと_レ乃_レなり_二三_一世_ニ巻_ニを_レな_レり_レぬ_レと_レは_レゆ_レり

初_ノの_主巻_ノを_レな_レり_二六_一の_レぬ_レん

○切字の_レて_レ可_レ有_レ分別_白

毛_ノく_二と_レなり_一類_ノの_レ芳_野心

真室

余_ノの_レ巻_ニに_レま_レる_レも_レを_レな_レり_レぬ_レん

懶_レされて_二なり_一ぬ_レん人_ノを_レ乃_レに_レぬ_レん

共角

これ_レは_レ白_ノの_レ切_字を_レ別_レり_二事_ノ人_ノ切_使く_レ初_レて

ま_レる_レ事_二再_ハゆ_レり_付

右_ノ切_字白_ノ大_カ概_カと_レゆ_レり_レぬ_レん

乃_レ細_字の_レ切_字を_レな_レり_レぬ_レん

白_ノと_レ人_ノゆ_レり_レぬ_レん

お_レの_レ巻_ノの_レ切_字を_レな_レり_レぬ_レん

これ_レは_レ切_字を_レな_レり_レぬ_レん

とる人おろしとせしむと引けり

松が食りしよとてくく様 づり

又とぎ乃二字の連歌よとなつてつゝ其のしゆか
殊り 遠海乃組よ人の用ひあるをともなせむら
るよとて可定

⑦現在乃哉 くらき哉

現在乃哉 菱白下乃くうれは法其法を記す

うと哉 十四板の法とよひ月れそぬら

こわしき世もゆり 雄王三よりなると信を乃とゆり

⑧云々 現在未來

心い志ろくを可連く短く 此は現在

⑩すべしゆり みまきりきり 此は未來

此ゆりの現在未來をいづ世も切實

これの切實なゆり 此れは

これの切實なゆり

⑨おろしぬ 不乃ぬ 半

たくとを 不乃ぬ 不乃ぬ 不乃ぬ 不乃ぬ

右ぬ乃おろしぬの字れうひて定ゆるは半ぬと記す

乃けりれどしてさるゆふとふゆぬきて切也ゆも
又杉舟ト切きいしゆ声れりて早ぬもふゆぬ
よも成事なり

乃ぬきえぬをれぬもてぬあぬ
きへげせでえぬれりゆゆきぬ乃字ま
くすきくささるゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

①七の乃ゆゆ

日ひ乃やあや香去用もゆくゆ一きよ
此やハ愛ふ此切字もゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

切やあゆ乃ゆゆあててまゆゆゆ

此やゆ有とゆゆゆゆゆゆゆゆ

投やあ泉れりゆ月乃ゆゆゆゆ

疑乃やゆゆゆゆ室ゆゆゆゆゆ

此やゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

あやゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

申乃やゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

も 何夏も道は行くきいばりなりて
かへぬ 都^トに志とて人を不自中して

此亦なり又

故生舎跡より名海字を教へて

二所^カ抱^カたる句とあり
又生舎跡より名海字を教へて

実^カ指^カす一^カ花^カとあり

又生舎跡より名海字を教へて
かへりてとありて
かへりてとありて
かへりてとありて
かへりてとありて
かへりてとありて
かへりてとありて
かへりてとありて
かへりてとありて
かへりてとありて

(五) けりけりふりて字と押字

そ 魚乃名と何れとていふ鐘なりて

あゆみ 幾大いなる戸^カ際よりありて

ふりてとありてとありてとありてとありて

あゆみよそのいふれ字ありていふとありてとありて

かたき人といふ事

⑤ とうとうふひ乃又字有てて留家仕様

ねごらひ中よ何うもくられし事ぞん

うごひれ字有てていふもあつてぞん

⑥ ねごらひ中よ何うもくられし事ぞん

うごひれ字有てていふもあつてぞん

ねごらひ中よ何うもくられし事ぞん

うごひれ字有てていふもあつてぞん

ねごらひ中よ何うもくられし事ぞん

ねとけし定まるる事なりと留家仕様

⑦ 下乃むねてとち

陰に月がまつくろくろく

中よいどうの戒とたりちも

⑧ 下乃むねてとち

下乃むねてとち

無ハ差入り月いふ事なり

下乃むねてとち

用ひきこりぬきいひて秘する事なり

⑤ 吉留

まゝまゝのつらなと指乃すき河

にるまばへ一むかひりともむらひてあへ

蔵危杖ありりてせ河

下おもつはへともおもひりひそけはまれと

とせりて又されくてもあつたり

佛のまゝひ証きくさ河

はつてま下おもつはへ留はまひさひひとあまも

あへづいづきとも留りたると

⑥ 又留

う 馬葉乃あひさ橋二まづりも

ま 小棟籠半と人おゆりとも

す 門徒乃あらからりせ河とも

川 伏見れ焼場きあうさ河とも

ぬ まうく度門おあもあぬとも

ふ 綱りあもさる転おとも

む 暮かた目さる河とも

ゆ 遠う火ひさのまてき河とも

る
九老如我彼より 伊ふも

たうあやううそとあるとるなり又いあててを
留るる剣をたつるものいふかたはあてふるハ
ヤかひまうそ也

①了れとひいてへけせてぬえがれを事し

け 後よりそとらぬとけりそりあ

せ 肝とれをけり也森耳のあつて

て 炭取んを 煙とくして

ぬ 言は葉よ骨あつぬれをらぬぬ

へ 徳めれをいそ人もうやま

め 親乃めるうらり人を人けむるあ

れ 筆^{ヒツ}ぬのくわるあ月をやりん

こ此外あよあうあうらるるあもあう入れ

とれをあひいけうえんとそあひいそをのれ

①老ひひ乃と原よ尔在葉

十九 伽藍とめて侍とてあふをさよと

十八 塔風は何處経うる碓乃まの

十六 くれをのうそ月此炎短

花

十五 帆をいばきぬあひひらりもぬ

①とぬ字

帆云らんとうきりぬあひひらりもぬ

いひひらりもぬいひひらりもぬ

とぬいひひらりもぬ

おどろくぬあひひらりもぬ

いひひらりもぬいひひらりもぬ

①正治定一とぬ字

帆をいばきぬあひひらりもぬ

帆をいばきぬあひひらりもぬ

帆をいばきぬあひひらりもぬ

少人何の如くもいふれり

この如くしてあまたもあつたはるる得てはあ
ゆる人こそ事ありや

其一百二のちり

さきよりいふ事ある事若ほる人

さきよりいふ事ある事若ほる人

他人の事ある事若ほる人

他人の事ある事若ほる人

他人の事ある事若ほる人

と下れ遠一白ニツク事して事之知れぬ事あり

其下れ白ニツク事

去らるる事ありや

子よりいふ事ありや

この如くしてあまたもあつたはるる得てはあ

ゆる

事ありや

事ありや

事ありや

⑤ 文字傳乃傳

文字傳はまた生りて一もえんも傳りやま
りてくる一の次 は後 云五のドと傳一う三と
りてう一七文字成りまう一う五三三三三
る伝りのくう一とく

⑥ 指合之妙法

一い乃の法を以て二連歌式を成るは歌の
手合 法をまぐ緒り有て一は其のく一先此是にほめて
五乃品廣一功と多別と用投中神功と手合也
これ皆宗道批巻乃の爲りあはれ其の辨證は
叙名く其言はまするを以て其法ワラ也成るく
自徳公連歌一拜品乃のむを五のい之爾は
はるは
こそ其のく一をそれく其法はるるもあうくい
あつるく之のく一平其はあ公其度乃其法

子の机^{ツギ}控^{ツギ}と我^{オレ}席^{シヤク}に坐^{イハ}りて舞^{マユ}臺^{ダイ}も吹^{フク}く白^{シラ}敷^{シキ}を敷^{シキ}ひて
 手^テ抱^カむとわさふのひて、さゆの制^{セイ}しるさかのおまへりま
 目^メまももわをまことれ思^{オモ}ひと解^{トク}さるへ之^ノ贈^{オウ}物^{モノ}は久^{キウ}しきも
 か何^{ナニ}とくもさうしうらなまきびくさきくはらなすそののせ
 後^{ノチ}くうの遠^{トホ}く成^ナぬとさかぬりあうともめさかへてさ
 やうに所^{トコロ}又^{マタ}公^{キミ}貴^キか人^{ヒト}地^チ安^{ヤス}すのるがけりいひに
 乃^{ソノ}の折^ヲりしり乃^{ソノ}の意^イをくらくくさき平^{ヘイ}道^{ドウ}に所^{トコロ}要^{ヨウ}
 はまのゆるさへるゆるるをゆるある考^{カウ}さひたりていひりゆ
 かよひのよきまかりしり所^{トコロ}成^ナぬ

卍 同字別吟

春日^{カスガ}はあまも目^メも 筑^{ツク}紫^{ムラサキ}又^{マタ}は念^{ネン}物^{モノ}の物^{モノ}成^ナ我^ワの物^{モノ}
 物^{モノ}鮮^{セン} 勅^{ツク}命^{メイ}は命^{メイ}弥^ミ施^シ球^{キウ}鞠^クの球^{キウ}代^{ダイ}は代^{ダイ}物^{モノ}
 関^{クワン}白^{ハク}は冥^{メイ}中^{チュウ}風^{フウ}は中^{チュウ}南^{ナン}無^ム又^{マタ}無^ム水^{スイ}揚^{ヨウ}
 操^{ソウ}行^{コウ}は仍^{ニョウ}軒^{ケン}は花^{ハナ}物^{モノ}難^{ナン}修^{シュウ}は波^ハ聲^{セイ}は堂^{ドウ}
 天^{テン}智^チ天^{テン}皇^{スウ}は天^{テン}目^メ主^{シュ}水^{スイ}は水^{スイ}北^{キツ}は乃^ノ金^{キン}車^{シャ}は
 子^コ孔^{クワン}雀^{ソク}は雀^{ソク}靈^{レイ}蘭^{ラン}盆^{ボン}は菊^{キク}三^{サン}日^{ニチ}月^{ゲツ}は日^{ニチ}

蛸トコの日ヒも暮クも山ヤマは羨ニヒク今朝コノアサは今イマ皆カ是コト
 年トシ是コト日ヒも今イマの字ジ名ナの句ク羨ニヒク日ヒは日ヒ陰カゲ
 昨キノ之日ノヒは不キズ嫌ミ月ツキはまきされを所トコロをカ你ニ
 生ウマのたタくひヒは上ウヘ戸ド下ゲ戸ド天下テンカは下ゲ下ゲ
 羨ニヒク泉イハレ海ウミ月ツキ西ニシ王オウ母ボは母ハハ百ヒャク唇シブ
 気キは百ヒャク字ジはハ数スウをカぐクくク大ダイ概カイ是コト
 准スじジ吟イン味ミをカべベー

此の故并玄嫌

日暮ヒツクをカ玄ソノ嫌ミ 一ヒトとトりリ三ミとトりリとトりリ

去ク秋アキ 二ニとトりリとトりリとトりリ

神カミ祇ミコト 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

虫ムシ懐イハレ母ハハ夢ユメ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

水ミヅ色イロ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

人ヒト佛ブツ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

最モト所トコロ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

秋アキ夜ヨ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

心ココロ孔アナ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

心ココロ孔アナ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

人ヒト佛ブツ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

最モト所トコロ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

秋アキ夜ヨ 一ヒトとトりリとトりリとトりリ

三石 旅

三石より多岐にわたる
てのちを旅の道に三

三石 生類

三石の虫、魚、鳥、獣
さのやうにいろいろ

三石 植物

三石の草、竹、木、花
いろいろいろいろあり

三石 名所

三石の山、川、池、井
いろいろいろいろあり

三石 坂分

三石の坂、分、路、道
いろいろいろいろあり

三石 隙物

三石の隙、物、産、物
いろいろいろいろあり

三石 候物

三石の候、物、産、物
いろいろいろいろあり

三石 生類

三石の虫、魚、鳥、獣
いろいろいろいろあり

三石 植物

三石の草、竹、木、花
いろいろいろいろあり

三石 衣類

三石の衣、類、産、物
いろいろいろいろあり

三石 園名

三石の園、名、産、物
いろいろいろいろあり

三石 風分

三石の風、分、産、物
いろいろいろいろあり

三石 天象

三石の天、象、産、物
いろいろいろいろあり

神祇之詞

大嘗會

新嘗年會

日産のち日産のち
宮内省

法

荒法からうりおれおれ
おれおれおれおれ

丸末

玉垣 甚だおれおれ
おれおれおれおれ

祿殿

所産のちおれおれ
おれおれおれおれ

長安

所産のちおれおれ
おれおれおれおれ

御稔

交りくおれおれ
おれおれおれおれ

夏神

川やいおれおれ
おれおれおれおれ

御車

おれおれおれおれ

神示 カクゴ 聖御承^レ奉^ルの御事
神輿 ニクニ 御事^ニ奉^ルの御事
神樂 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
神樂 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

御幣 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御幣 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御幣 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

拍掌 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
拍掌 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
拍掌 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
御火燒 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

小忌衣 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
小忌衣 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
小忌衣 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

○非祚祇詞

元方 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
元方 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
元方 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

終祚 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
終祚 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
終祚 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

○西尺表之類

佛像 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
佛像 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
佛像 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

僧祿 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
僧祿 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事
僧祿 カクゴ 御事^ニ奉^ルの御事

宿業 シユクニウ 常香 シウカウ 五山 コサン 法回 ホウケ 引等 イントウ 祝忌 シユキ 悟道 ブトウ

陪堂 ホイタウ 奇 キ 六 ロク 故日 コジツ 桑湯 サンタウ 廻向 ケウキョウ 披岸 ヒガン 本日 コジツ

定雲 テイウン 未 ミ 位 イ 牌 パイ 六 ロク 道 トウ 美 ミ 悅 エツ 持 チ 戒 ケイ 外 ガイ 道 トウ

紫雲 シユン 未 ミ 位 イ 牌 パイ 六 ロク 道 トウ 美 ミ 悅 エツ 持 チ 戒 ケイ 外 ガイ 道 トウ

紫雲 シユン 未 ミ 位 イ 牌 パイ 六 ロク 道 トウ 美 ミ 悅 エツ 持 チ 戒 ケイ 外 ガイ 道 トウ

諸佛 シヨブツ 必 ヒツ 曼 マン 薩 サク 名 ナ 祖 ソ 師 シ 名 ナ 表 ゲ 耗 コウ 交 カウ 中 チュウ 友 ユウ 行 コウ 友 ユウ 書 ショ

實 ジツ 双 シュウ 通 トウ 三 サン 具 ク 足 ソク 華 ケ 愕 ガク 天 テン 蓋 カク 九 ク 不 フ 臺 タイ

非 ヒ 尺 シツ 義 ギ 嗣 シ 鳥 カウ 野 ヤ 山 サン 同 トウ 枝 シ 心 シン 宅 タク 宅 タク 非 ヒ 祇 キ 之 シ 尺 シツ 義 ギ 之 シ

◎ 戀之詞

意 イ 意 イ 之 シ 詞 ジ 意 イ 意 イ 之 シ 詞 ジ 意 イ 意 イ 之 シ 詞 ジ

思 シ 思 シ 之 シ 詞 ジ 思 シ 思 シ 之 シ 詞 ジ 思 シ 思 シ 之 シ 詞 ジ

情 セイ 情 セイ 之 シ 詞 ジ 情 セイ 情 セイ 之 シ 詞 ジ 情 セイ 情 セイ 之 シ 詞 ジ

洞 ドウ 洞 ドウ 之 シ 詞 ジ 洞 ドウ 洞 ドウ 之 シ 詞 ジ 洞 ドウ 洞 ドウ 之 シ 詞 ジ

恨 コン 恨 コン 之 シ 詞 ジ 恨 コン 恨 コン 之 シ 詞 ジ 恨 コン 恨 コン 之 シ 詞 ジ

受 ウ 受 ウ 之 シ 詞 ジ 受 ウ 受 ウ 之 シ 詞 ジ 受 ウ 受 ウ 之 シ 詞 ジ

受 ウ 受 ウ 之 シ 詞 ジ 受 ウ 受 ウ 之 シ 詞 ジ 受 ウ 受 ウ 之 シ 詞 ジ

新松 あらたなまつ
新松 あらたなまつ
新松 あらたなまつ

傾城 かたがは 傾城 かたがは 傾城 かたがは
傾城 かたがは 傾城 かたがは 傾城 かたがは

娘 むすめ 娘 むすめ 娘 むすめ
娘 むすめ 娘 むすめ 娘 むすめ

密言 ひそごひ 密言 ひそごひ 密言 ひそごひ
密言 ひそごひ 密言 ひそごひ 密言 ひそごひ

私言 ひそごと 私言 ひそごと 私言 ひそごと
私言 ひそごと 私言 ひそごと 私言 ひそごと

私語 ひそごひ 私語 ひそごひ 私語 ひそごひ
私語 ひそごひ 私語 ひそごひ 私語 ひそごひ

文 ふみ 文 ふみ 文 ふみ
文 ふみ 文 ふみ 文 ふみ

後知 あとのちり 後知 あとのちり 後知 あとのちり
後知 あとのちり 後知 あとのちり 後知 あとのちり

契 ちぎ 契 ちぎ 契 ちぎ
契 ちぎ 契 ちぎ 契 ちぎ

伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ
伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ

伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ
伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ

伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ
伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ

伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ
伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ

伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ
伊達 いだけ 伊達 いだけ 伊達 いだけ

後家 賤女市女下女 柱女

卍 無常之詞

妻傷

塙丁心 何々野

多途野の塙 人煙場 煙

死出乃山

死あひの山 三河 死人

棺 酒地乃送り 原色

墓 墓 塙

中陰 四十九代餅 魂移し 人魂 力為 枕食

腹切 自害 白骨 冥途 黄泉 喪

髑髏

幽霊

妙なる枕

霊世

卍 本懐之詞 并 懐回

往昔

いふ人 昔人 昔昔 昔々 昔々

故人

老

老 老の命 老の世

生死 白髪

後家

命 命 命 命 命 命 命 命

姥

隠居 隠者 道世 女根 杖 苕衣 苕衣

眉上霜

俗俗 俗俗 俗俗 俗俗 俗俗 俗俗

古家其日也 措切不仕合 継子寡乞食
世於人 後世 借債 年忌月忌遠也

平 非本懐網

釣弱 炭賣翁 賤翁 賤恩耐 瘡
報真 病 草乃庵 柴の戸

聖 人備之詞

雲乃上人 殿上人 武士 侍共郎等 妾者 使者

醫師 佛師 繪師 抄師 僧者

佛文者 僧 比丘尼 尼 農人 商人 職人

最也 伶人 癡者 羽姥 定人 伯子

馬子 番古 捕人 漁翁 舟人 桂女 牙 我 獨

月はのし 亭主 兄 姉 妹 海士 民

媛 冥守 ね人 御乳 母人 衆 汽 推 更 雁 道

鬻女 盜賊 強盜 孫 宜 神 若 君

コヒキニシカ
 長下長者嫂素親子伯父伯母
 祖父祖母姑舅娘姪孫後孫兒村神母
 神師結衣丈仕下野良傾城白梅湯女長者
 屠兒男女友達四義師近唱食日宿
 新登道精士指守舟長聲素更酒研多張
 淨和孤吉輝の團猫牙入相人僧の程賢如
 孤子超淵を娘宮人稱之其より公家より人稱之のれ家と
 物とをそとせり信若人論とをそとけのれとけ人

里 非人傳詞

東宮皇女門跡公家帝宮親王女院本院
 仙洞新院太子大君人間道心僧仙人長老
 一門一衣六親在行新式給任典某下戸眷屬
 祖師橋姫我君本道外科二人老翁信大坊
 海搦人歌聲啞盲目代後月と友花と友月と
 乃一むとと河と碎ぬり也
 乃一むとと河と碎ぬり也

国代因付よりさへル敬ス居ル以テ之ヲ敬スみニち
 一族イ雜チ共ニ凡ソ夫レ之ヲ生ス行キ拂ス和シ寓ス室ニ拾テ得ル私ニ
 基ニ且チ於テ此ノ坊ニ友ニ氏ノ友ニ名ヲ如シ来リ美シ薩ノ祖ト
 師ノ乃チ名ハ此ノ人ト傷セ也ハ百ノ性ノ順レ礼ト大ニ

〔黒〕居所之詞

家ト家ノ居ル室ト門ト戸ト背ル戸ト窓ト郭ト格子ト障子
小家ノ窓ト門ト戸ト背ル戸ト窓ト郭ト格子ト障子
 致スは致ス及チ化ス及チ内ニ在ル其ノのノ樓ニ樓ニ省ト省トは省ノ浴ヲ茅ト
 高ク及チ於テ此ノのノかキとスのノ樓ニ樓ニ上ニ省ト省トは省ノ浴ヲ茅ト

城ト天守ト亭ト玄ノ室ト屋ト路ト地ト棟ト軒ト二階ト棚ト末ト
 庵ト里ト村ト天井ト度ト間ト世ト部ト廊ト下ト基ト所ト度ト基ト
 壁ト居ル間ト湯ト放ル納ル戸ト屋ト根ト柵ト丁ト籠ト地ト垣ト隣ト藏ト掘ト
 火ト爐ト坪ト内ト外ト面ト簾ト井ト筒ト走ル置ル暖ル簾ト番ト所ト
 爰ニ居ル鴨ト砂ト圍ル爐ト圍ル爐ト衰ル礎ト簀ト子ト
 非居所詞

寺台寔ハ院ツキ山タマ堂ホウ皇クニ后ノミ内ウチ裡ナカ塔ツツミ伽カ藍ラン文モン窟ツツ
袂タビ眠ネム處トコロ庫クラ意イ柱スズ色シキ去ク寺テ堂ドウ外ソト名ナ籠カゴ

置 和分の列

祢ネ不ブ日ニ字ジらラ的テ星ホシ七シ夕セキ樓ロウ夏カ夏カ夏カ夏カ夏カ
縮ヒキツム妻ツメ膏カウ也ヤ之ノ曙アサギ曉キヨク云クモ乃ハハ月ツキ字ジ
月ツキ乃ハハ人ヒト的テ方カタ乃ハハ的テ殘ザン曙アサギ東トウ雲ウン表オモテ是コノ梓シラカシ双フタ綿ワタ
任ニ其シ布フ炸サ灯ドウ舞マユ桃モモ燈ドウ行ユク燈ドウ燭ソク臺ダイ漢カン火カ

花ハナ火カ煙ケムリ火カ交マシ交マシ文モン床トコ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ

芝シラ又マタ復タガハシ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ

龍リウ首ウエ逆サカシ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ

蝠フツ蝠フツ黃ワウ摺シ染ゼン乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ

冲チウ突ツク斗トウねネ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ

手テ燭ソク舞マユ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ乃ハハ

川カハ規キ狩カウ人ヒト兔ウ蒲フ團ダン新シン灯ドウ深シム文モン清セイ玉ギョク燭ソク

ねむる 天代川 星と唱 倣名 衣く 網代床此
又 産女 化相 夜 登 过 君

○ 此夜分網

灯 鏡 交 疎 不 乃 曉 夕 夕 収 燈 火
苦 火 泊 夜 を 侍 月 夕 月 収 御 火 燈 常 此 燈
床 之 伏 一 夜 酒 禱 電 明 之 山 家 以 景 夜 之 夕 夕
乃 泊 舟 三 月 出 朝 調 夕 夜 月 夕 夜 鐘 度

釋の床 泊 舟 入 桐 舟 幼 曼 理

○ 山類之綱

山 嶽 洞 洞 組 坂 谷 沖 尾 之 高 根 麓 淵 池
材 杉 木 炭 竈 山 姥 之 地 浮 池 小 堀 小 池 松 崎
山 梨 北 山 鳥 籠 山 河 之 堂
葛 城 久 米 路 の 一 九 折 知 之 山 世 帯 之 山 高 尾

○ 此山類

龍皇峯 雪山 島国 淡路島 山科乃美 山

軍河 龍皇川 本島 淡路川 淡路川 小野

青野 岩橋 炭焼 淡路川 元木 氷

宝 下野 荻 猿 猿 猿 猿 猿 猿

淡路川 湯 岩屋

○水色之類 水の色の類

海浦 淡路 江 淡路 諸 諸 沖 岸 淡路 川 水 淡路 池

瀬 例 砂 泉 井 滝 津 砂 津 塩 波 急 氷 流 舟 橋

袋 網 釣 貝 浅 水 淵 如 水 堂 少 柱 温 泉 塩 城

浮 本 水 高 沼 籠 免 下 樋 浮 桶 蜻 壺 沸 士 狩 々

和 布 代 於 毒 水 鷄 守 文 千 高 都 志 鳥 籠 藻 下

任 虫 負 鏡 乃 於 括 振 友 邪 承 放 生 志 御 稜 々 々

優 系 優 漂 優 木 水 屑 地 誌 藻 々 々 々 々

藤 蓮 芦 淡 荻 枝 若 葛 蒲 あ や め 古 藤 萍

菱流木 氷急回井 月見出垣 小島伏漬 龜井

里に蟻虫 水を強火 儲仁志兵衛 三井寺後見寺

志奴代松 大津明石 粟津須廣 松崎三浦岩橋

梁桑より 羅波津浦の安八郎 漢本佛

● 旭の巻廻

羅波寺 志奴代 志又井 粟津の系 天とと 橋岡

三ツ川 羅波の巻廻

新代水布 布少くも 宝持の巻廻 銅乃とと 田代岩

苗代 台屋 横川 小由比村 鹿乃とと 硯水 鴨

菫乃乃後 龍 妻浦娘 乃乃とと 早苗 天水

若乃 蓮肉 色とり貝 蓮代とと 榮家 院 子魚 子

貝鶴乃 橋 野 栗乃 橋 乾海流

孫狐乃 網をせよ 水をまゆる せとと 左舌に 越る

くら 或はらふ せとと へとと 手書お 其地多 ぬ仕事 する

其度は宗匠に隨ひて用程の多しは改珠論よ
て、シクシにけりシクシがゆへにナカの宗匠にナカの
かまらざる書をもゆきとてふかざるにそれ換り
てと書ゆへにナカの宗匠にナカの
かまらんと書せぬとてふかざるにそれ換り
かまらざる書をもゆきとてふかざるにそれ換り
てと書ゆへにナカの宗匠にナカの
かまらんと書せぬとてふかざるにそれ換り

垂四季之祠

春

青陽青帝陽春蒼昊東君詔光

正月

上陽孟春夏正 朔月 初月 初月 初月
初陽大後阪月 初月 初月 初月

正月は紀味ゆきしゆらぬしつと月ともつりそれと書
てむ月ともつりまをん後十五日雨水乃節は初昏は斗柄
寅乃節は卯白り其節はまをん乃月とも書寅ハ變乃世の
正月とて夏正といひ

元月

上元 年元 鷄旦 赤白 冬乃 冬乃 冬乃
雲中 赤白 改旦 冬乃 初乃 冬乃 冬乃

初月

初月 初月 初月 初月 初月 初月 初月

初月は初月とも書ゆへに初月とも書ゆへに
初月は初月とも書ゆへに初月とも書ゆへに
初月は初月とも書ゆへに初月とも書ゆへに
初月は初月とも書ゆへに初月とも書ゆへに
初月は初月とも書ゆへに初月とも書ゆへに
初月は初月とも書ゆへに初月とも書ゆへに

四方科

星とさあふ 元正寅乃時とては辰星とさあふ
付り佛 天竺四方乃辰星とては辰星とさあふ

又と松の宝珠とては辰星とさあふ
辰星とさあふ 辰星とさあふ
辰星とさあふ 辰星とさあふ
辰星とさあふ 辰星とさあふ

齒固

中流りえ 齒固

人ハ齒とて命とては辰星とさあふ
辰星とさあふ 辰星とさあふ
辰星とさあふ 辰星とさあふ

椒餅 元日ハ用あり
御薬と供と

白散 度摩散
元日

公節會 七曜神曆
朔賀

小節 元日ハ用あり
元日

院 院科
元日

祇園 祇園科
元日

徳乃 徳乃科
元日

美乃 美乃科
元日

か かし科
元日

い せい科
元日

の せい科
元日

から せい科
元日

のこさばてんこうらとぞう
あ乃りのこやちも
蓮葉かぶさか

田んぐりやけり
くかき抄が抄りし
杖のよあこわかさる
とりて 元日

依子
生内流
押紙
年

遊久海とゆくとらと
玉練打
五

くわんげく
加登
破
五

宝引
花ひら
湯
五

る乃り
きうり
玉糸
五

初高
初り
店卸
三物
五

初高
初り
志
五

初高
初り
書
五

初高
初り
松
五

初高
初り
ね
五

初高
初り
水
五

初高
初り
茶
五

初高
初り
書
五

初高
初り
如
五

九月廿一日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿二日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿三日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿四日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿五日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿六日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿七日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿八日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿九日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月三十日 松乃内 松乃内 松乃内

九月廿一日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿二日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿三日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿四日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿五日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿六日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿七日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿八日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月廿九日 松乃内 松乃内 松乃内
 九月三十日 松乃内 松乃内 松乃内

白馬節會 七日 節弓兵妻 七日正月 靈辰吐

人日 七 人日 七 人日 七 人日 七 人日 七 人日 七

事 七 事 七 事 七 事 七 事 七 事 七

御齋 八 御齋 八 御齋 八 御齋 八 御齋 八 御齋 八

大元師 八 大元師 八 大元師 八 大元師 八 大元師 八 大元師 八

常陸 九 常陸 九 常陸 九 常陸 九 常陸 九 常陸 九

夷 十 夷 十 夷 十 夷 十 夷 十 夷 十

除 十一 除 十一 除 十一 除 十一 除 十一 除 十一

御齋 論義 十四日 節弓兵妻

三速 十四日 節弓兵妻

上元 十五日 節弓兵妻

御齋 十五日 節弓兵妻

小豆粥 十五日 節弓兵妻

御齋 十六日 節弓兵妻

厄神 十九日 節弓兵妻

節弓 十八日 節弓兵妻

吉田清稜 十九日 具足は後

二十日 魚餅と漿

都改鴻

内裏 十日 福寿草

外記乃 節振樂 東風

少中く 魚汁

凍とく 雪汁

雨乃 節 水鳥轉

木乃 節 下乃 葉 水入葉

野大根 根白草 菘菹

紫 梅 柳

柳 岩柳 百子鳥

柳 門の柳 百子鳥

木地燵縁

依保姫

乃どろ

同

暖

水ぬる

河還

万葉集

春鶯鳴

梅づえ

大并

子月夜

松乃花

みどり

みどり

みどり

十カウ

霞

八重庭

霞色

霞乃衣

青苔

一カク

白魚

白魚

丁緒

丁緒

青苔

おどろ

葩葩

葩葩

山椒

野老

雲乃

霞乃洞

雲麻

雲麻

二月

仲夏 夾後 朔月 小學生月

陽中

初午

中和節

相見

蟄節

初午

初午

東福寺

見

水同寺

初午

本妙寺

泰

初午

扶生子

乃

釋奠

井十

春日祭

園

轉神

条

大原野

上卯月

初年祭

初年祭

度乃

紙園

八講

列見

云

吉野

乃

乃

此良乃八講 二月堂のい

遺教経 九月より 佛乃別 二月にワレハシ佛經

法華柱炸 十五日 奥福古考示 二月 積塔 十六日

二月 臘月夜 法月 後の成乃日

治世耳酒 社日又酒のあし 法雨 社日れぬ 象宗

寺寂勝會 十九日ヨリ 法同祭 九日 天王寺之聖

靈土 北野 道明寺 祭日 六六

赤子汗讀柱 二日 灸 同出替 波岸 時時宗

躍念佛 波岸 踏哥乃後宴 三日 此乃内表

蛇穴と出所 蛇化して鳩と成

鳥若巢 多此九巢

多乃鴨 紙子 ぎくすく鳥 多乃將由りぬ

網籠 子ととと 魚 玄鳥 けんくう 鳥 鳥 鳥

海家 丁乃鳥 乃の別 少ゆく 松 松 松

雲雀 ひかりうえ 響 琴ひく 飯多 雀子

蜂 蜂 蜂 蜂 蜂 蜂 蜂 蜂 蜂 蜂

地虫出子 鯨穴と云る 陽炎 猫のうら子 猫乃

いさよ 松系 多代さか 初甜 子取 田螺

螺 奇居 肥 飯 蛸 鯛乃子取 田螺

初雷 雷初色 初稻 びくろ 八重代梅 餅可也

初雷 雷初色 初稲 びくろ 八重代梅 餅可也

三月

弥生を又月は三月末の月と月事云々 善法
尊法 中姑 古洗 宿月 加月 長夜

巳乃月 乃上巳と巳哉日也 乃今三月言と用て巳月
乃今三月言と用て巳月

次之 乃今三月言と用て巳月

盆とありわらう哉 巳日 乃今三月言と用て巳月

油花下 三月 乃今三月言と用て巳月

三月

弥生を又月は三月末の月と月事云々 善法
尊法 中姑 古洗 宿月 加月 長夜

巳乃月 乃上巳と巳哉日也 乃今三月言と用て巳月
乃今三月言と用て巳月

次之 乃今三月言と用て巳月

盆とありわらう哉 巳日 乃今三月言と用て巳月

油花下 三月 乃今三月言と用て巳月

於學會主サカカタ 大志オホシ 弘日ヒロヒ 子コ 女メ 志シ 盛セ 盛セ 盛セ 盛セ

軍祭日イクサノヒ 御身ミミ 拭ヒ 日ヒ 御身ミミ 供ツケ 日ヒ 稻荷イナリ 乃ナリ 御ミ

出デ 中ナカ 日ヒ 乃ナリ 順スミ 乃ナリ 筆ヒト 入イリ 田タ 鼠ネズミ 化カ 七ナナ

結ムス 之シ 穀コメ 雨アメ 乃ナリ 節セツ 月ツキ 萍ヒバ 生ナ 初ハジメ 暖タカシ 氣キ

永トヨクニ 之シ 日ヒ 生ナ 之シ 日ヒ 友トモ 之シ 侍サマ 暮ク 之シ 云クニ 之シ 暮ク 之シ 云クニ

去ク 之シ 乃ナリ 去ク 之シ 乃ナリ 去ク 之シ 乃ナリ 去ク 之シ 乃ナリ 去ク 之シ 乃ナリ

燭ロウ 之シ 寒サムイ 乃ナリ 節セツ 月ツキ 郭カク 公コウ 乃ナリ 巢ス 結ムス 之シ 巢ス

鷹トビ 之シ 巢ス 或ア 之シ 巢ス 呼ヨコ 之シ 巢ス 云クニ 之シ 巢ス 又マタ 之シ 巢ス 又マタ 之シ 巢ス

麦ムギ 結ムス 之シ 乃ナリ 藥ヤク 之シ 乃ナリ 鏡カガミ 核クワシ 貝カイ 核クワシ 魚イサ 核クワシ 網アミ

揚ホウ 之シ 乃ナリ 布ヌ 柳ヤナギ 葉ハ 魚イサ 之シ 乃ナリ 鮎アサギ 之シ 乃ナリ

素ソ 子コ 新ニイ 素ソ 搗ツム 桃モモ 之シ 乃ナリ 桃モモ 之シ 乃ナリ

桃モモ 林リン 櫻ウツギ 之シ 乃ナリ 櫻ウツギ 之シ 乃ナリ 櫻ウツギ 之シ 乃ナリ

所ショ 之シ 乃ナリ 持テ 雲クモ 升ノボ 之シ 乃ナリ 人ヒト 之シ 乃ナリ 人ヒト 之シ 乃ナリ

西セ 之シ 乃ナリ 柳ヤナギ 之シ 乃ナリ 大オホ 之シ 乃ナリ 柳ヤナギ 之シ 乃ナリ 柳ヤナギ 之シ 乃ナリ

志シ 之シ 乃ナリ 志シ 之シ 乃ナリ 志シ 之シ 乃ナリ 志シ 之シ 乃ナリ 志シ 之シ 乃ナリ

花ハナ 之シ 乃ナリ 花ハナ 之シ 乃ナリ 花ハナ 之シ 乃ナリ 花ハナ 之シ 乃ナリ 花ハナ 之シ 乃ナリ

花ハナ 之シ 乃ナリ 花ハナ 之シ 乃ナリ 花ハナ 之シ 乃ナリ 花ハナ 之シ 乃ナリ 花ハナ 之シ 乃ナリ

花は波 花の鈴 花鳥 花の丸
花の海 花の雲 花の鳥 花の丸
花の海 花の雲 花の鳥 花の丸

花は海 花の雲 花の鳥 花の丸
花の海 花の雲 花の鳥 花の丸
花の海 花の雲 花の鳥 花の丸

花見車 花はくさ 花びまび 花軍

花は葉 花は葉 花は葉 花は葉

花の都 花は躍 聲花 花榮

花は海 花は海 花は海 花は海

花守 利花 花は葉 花は葉

幸夷 幸夷 幸夷 幸夷

道茶乃花 杏子花 李乃花 蓮花

沉下花 木色花 赤菊花 小糸乃花

迷 小梅乃花 庭掃 馬群木花

林橋花 檜乃花 掃乃花 揚木花

東乃花 金法 藤 藤

東乃花 金法 藤 藤

菘の丸 莖 芽心ぬく 枸杞 菜

母子心 新茶 九福堂 馬蘭

東菊 秋菊 拈茶 七重丸

金鳳丸 華憐他仙茶 下子菜

眉化乃花 一後必花 仙臺菘 菊植替

虎杖 三葉芥 荻花竹 三月菜 二月

大根 金錢花 鷄爪菜 乃花 只んま

去雨 你生心 心ら衣 表白裏赤花

表の衣 表の衣 表の衣 表の衣

夏 朱明 昊天



卯月 卯戌月 得志卯月 辰卯月 巳月 午陽月

更衣 白重 衣 衣 衣 衣

水可始 供氷 一日 盃 衣 角乃作 苑 廣 菜

山科 糸 平野 糸 松尾 糸 當 廣

糸 大和 松本 糸 高家 糸 梅宮 糸

糸 大和 松本 糸 高家 糸 梅宮 糸

水屋徳

三百四十九日

廣波

龍田奈

四月廿七日使

三月八日願奈

辰月ナカイン

三月八日又此時成

三月八日願奈

漉佛

八日仏生會於苑倉保佛

鷹入鳥屋

八百カイツルカケイ

山湯奈

多族奈

中ノテス

伊勢神奈

十四日麻核乃連之為人麻ナ

中申日カモ

加茂乃奈

中山奈

吉田奈

三枝奈

干奈

日向神奈

久世奈

本奈

大塔會

奈

梅天

煮酒

松乃花

松乃

菱草 ヒメコ 菱草 ヒメコ か シ あ ハ ひ ハ たら ハ あ ハ ひ ハ こ ハ

ゆい ヒメコ 玉卷草 ヒメコ 玉巻草 ヒメコ 玉巻草 ヒメコ 玉巻草 ヒメコ

亥子 ヒメコ 亥子 ヒメコ や シ ち ハ や ハ ら ハ ら ハ 鴨足草 ヒメコ 岩友 ヒメコ

躍花 ヒメコ 茶 ヒメコ 茶 ヒメコ 茶 ヒメコ 茶 ヒメコ 茶 ヒメコ

葉乃 ヒメコ 葉乃 ヒメコ 葉乃 ヒメコ 葉乃 ヒメコ 葉乃 ヒメコ

衣木 ヒメコ 衣木 ヒメコ 衣木 ヒメコ 衣木 ヒメコ 衣木 ヒメコ

花抽 ヒメコ 花抽 ヒメコ 花抽 ヒメコ 花抽 ヒメコ 花抽 ヒメコ

手鞠 ヒメコ 手鞠 ヒメコ 手鞠 ヒメコ 手鞠 ヒメコ 手鞠 ヒメコ

厚叶 ヒメコ 厚叶 ヒメコ 厚叶 ヒメコ 厚叶 ヒメコ 厚叶 ヒメコ

実竹 ヒメコ 実竹 ヒメコ 実竹 ヒメコ 実竹 ヒメコ 実竹 ヒメコ

蕪多 ヒメコ 蕪多 ヒメコ 蕪多 ヒメコ 蕪多 ヒメコ 蕪多 ヒメコ

荜原 ヒメコ 荜原 ヒメコ 荜原 ヒメコ 荜原 ヒメコ 荜原 ヒメコ

虫出 ヒメコ 虫出 ヒメコ 虫出 ヒメコ 虫出 ヒメコ 虫出 ヒメコ

蚊帳 ヒメコ 蚊帳 ヒメコ 蚊帳 ヒメコ 蚊帳 ヒメコ 蚊帳 ヒメコ

解疑 ヒメコ 解疑 ヒメコ 解疑 ヒメコ 解疑 ヒメコ 解疑 ヒメコ

真 ヒメコ 真 ヒメコ 真 ヒメコ 真 ヒメコ 真 ヒメコ

小南よりふりかへりてあて村 **桃平符** 五日 **赤垂符** 五日

あてくもと合申すなり **百** 百

たろろん **南湯** 湯

象乃 象乃

鰐 鰐

駿渡 駿渡

騎射 騎射

是より入りて日ごとく 三日八たどりわく

習の鹿をいめてまる給ひゆれは

平地 **神水** **笑成乃**

昔よりある **標** 五日

徒糸 **鏡** 鏡

今宮 **室** 室

有 **寂勝講** 寂勝講

住吉の所 **植** 植

芭 **夏** 夏

微雨 黄柳 五月廿八日 祇園 洗心

五月廿八日 富士 蟬 初聲

富士 蟬 初聲

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

薬 乃 心

祇園會 七日

長刀鉾 子どろふこ
みまありと

月をと 盆ふこ二
放下ふこ 舟をこ

新巨山 蓮宗山 翠破山

とまのりやま

かまきりふ ちみ山

山并山 白赤文 岩列山

花盛人ふ

入神山 二山岩山

乃小祇園の本社より西条

東極の浄法寺より神楽を引

てくる

同

十日 栴檀寺

東山 二山 八山人ふりかへん

舟をこ

津島

十日 舟まはり

舟をこ

焚田

いんげん海

十五日 舟生

舟をこ

壬午

相違

祇園

赤食

伊勢

舟をこ

多

志渡寺

舟をこ

富

舟をこ

舟をこ

熟

舟をこ

舟をこ

天

舟をこ

舟をこ

加

舟をこ

舟をこ

舟

舟をこ

舟をこ

大

舟をこ

舟をこ

菅

舟をこ

舟をこ

茅の輪 巳午の大王様 夏 あつ

川社 辰辰小川をよみ棚とよみ 小蛇之神 ハコ

五神 ヒツツ 火系 ヒツツ 火災 ヒツツ

道 ミチ 道 ミチ 道 ミチ 道 ミチ

施系 セ 施系 セ 施系 セ 施系 セ

雷 カミナリ 雷 カミナリ 雷 カミナリ 雷 カミナリ

小暑 コショウ 小暑 コショウ 小暑 コショウ 小暑 コショウ

大暑 タイショウ 大暑 タイショウ 大暑 タイショウ 大暑 タイショウ

腐子 カウ 腐子 カウ 腐子 カウ 腐子 カウ

天 テン 天 テン 天 テン 天 テン

伏 フツ 伏 フツ 伏 フツ 伏 フツ

出用 シュウヨウ 出用 シュウヨウ 出用 シュウヨウ 出用 シュウヨウ

行 ユク 行 ユク 行 ユク 行 ユク

日 ヒ 日 ヒ 日 ヒ 日 ヒ

新井 ニヤウ 新井 ニヤウ 新井 ニヤウ 新井 ニヤウ

新井 ニヤウ 新井 ニヤウ 新井 ニヤウ 新井 ニヤウ

葛水 干版 明 蒼 蒼 蒼 蒼 蒼
 何 衣 切 系 梅 梅 梅 梅 梅
 李 林 槍 百 紅 梅 子 梅 子 梅 子
 川 草 之 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮
 浮 酒 酒 酒 酒 酒 酒 酒
 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙
 蘭 蘭 蘭 蘭 蘭 蘭 蘭 蘭 蘭 蘭
 海 草 度 尾 地 風 蘭 海 草 銀

寶珠 麒麟草 芥子 芥子 青 芥子
 空 極 赤 草 系 麻 芥子 芥子
 乃 花 香 雲 散 香 香 香 香
 胡 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜
 尺 金 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜
 七 之 金 廣 鷹 蟬 蟬 蟬 蟬
 夏 虫 日 走 之 不 走 之 不 走 之 不 走

好竹之衣衣巧天天竹竹
重七箇地七箇地
 握乃葉握乃葉芋乃袋芋乃袋
 七月御所依七月御所依
 赤餅赤餅本願寺門跡本願寺門跡
 飛飛鞠鞠送送
 成入成入珠念珠念道泰道泰
 松松

水寺水寺中元日中元日孟蘭盆孟蘭盆
 玉玉慕慕身玉身玉燭燭
 多多曜曜新新綿綿典典
字

十五日今八
十三月十九日
解夏草 菊をついで且戴て是をよこ花火 水

くの一草 又指の事なり 地産糸 土留 山やト

糸 七七日みさ山指 徳屋化 唐のふもゆるりや

御冥途に出 十八 相撲 過すまひ

霧 岐の霧 神の房 考 考れまうき 考まへ

妻の香 稲妻 いままも秋あり 乃心暑さ

秋風 律乃風 律乃風 袖膚 身よへ

ひやうり 爽 扇置 籬 木槿 草花

とらへ 女所花 羽衣 華半 夕歌の

実 萩 系萩小萩 萩のわき 鹿衣素 秋殿

萩は戸 萩中 萩あり 所より 清涼風の心 白萩 萩をる

芭蕉 小車乃花 桔梗 ちや 檝乃花 大み草

萩 乃さ萩萩 トとさ ちや 檝乃花 大み草

桐標草 仙羽花

茶師草 公羽草

蜀の根をみずから白く 暑珠波花 我衣金 花

炎花 益母草 若荷乃花 薤豆

垣豆 綠瓜 番椒 蕪麻 蓮花 交をり

木瓜の実 松花 早回りの花

くまの虫 秋の蚊 蛸 秋の

胡蝶 蜂 秋の螢 秋の赤らん

松虫 鈴虫 螻蛄 螻蛄 螻蛄

蠶虫 蛾 虫 合出

を蝶 虫をく 但しのせり 年ト 藤まき 虫

秋風少 虫 冬 虫 田虫 蠶 虫 蟻 虫

節 虫 鳥 虫 多 虫 蟻 虫 蟻 虫

初 虫 持 虫 丸 虫 冷 虫 麦 虫 焼 虫 茶 虫

八月 葉月 秋風月 月又月 仲秋 南呂 野月 中林 雞月

八月 八朔 白房乃節 天中乃節 八月

水村 祭 坂 天神 祭 小野 祭

水村 祭 坂 天神 祭 小野 祭

めりくわん 花 藍乃花

壇持 志とよ 月草

葛 野菊 風仙花 猪心 金剛草

紅 百夜草 通草 蔓花

毛 松丹 牛房引

芋 薯蕷 荷

茶 芍薬 新安生

綿 夜 菜

鶏 鴨 雁

燕 編負鳥 小鳥渡

燕 雁 小鳥渡

燕 雁 小鳥渡

燕 雁 小鳥渡

燕 雁 小鳥渡

めりくわん 花 藍乃花

壇持 志とよ 月草

葛 野菊 風仙花 猪心 金剛草

紅 百夜草 通草 蔓花

毛 松丹 牛房引

芋 薯蕷 荷

茶 芍薬 新安生

綿 夜 菜

鶏 鴨 雁

燕 編負鳥 小鳥渡

燕 鴨 雁

燕 雁 小鳥渡

燕 雁 小鳥渡

燕 雁 小鳥渡

ひて さんさく して 貼 貼

川まて わりらり 小窓 小窓 杖の鼻より

まき 小窓 杖の鼻より 左刀魚 加じり

下葉 やみ 鎌 鎌

初麩 麩 麩

野多 八月 初塩

痛葉 とこまのち

東穂 粟川

八日 乃田 乃田

御灯 三月 不堪男乃妻 七日 泉涌寺舍利會

重陽宴 九日 御香好交祭 九日 御香好交祭

醍醐祭 九日 貴布祿祭 九日 貴布祿祭

九月 粟山子 九月 粟山子

御燈 三月 不堪男乃妻 七日 泉涌寺舍利會

重陽宴 九日 御香好交祭 九日 御香好交祭

醍醐祭 九日 貴布祿祭 九日 貴布祿祭

九月 粟山子 九月 粟山子

御燈 三月 不堪男乃妻 七日 泉涌寺舍利會

下島祭 十日 例幣 七日 信相模會 十日

吉江市 十三日 十日 白河祭 十三日 後北名月

十三夜 まめみ月 栗月 天正の一年會 日 岩倉祭

十九日 小金祭 十九日 幼學會 三月 栗園祭

一之祭 同日 神田明神祭 同日 度會新嘗

會 十六日 愚考祭 同日 山口祭 中巳午 吳服祭

十八日 赤やとく祭 十七日 日付の宝地田よる 安女利女祭 室町 核夷

祭 九日 八幡花乃 九日 城南寺祭 九日 上毛

天王寺 枝縁 権垣 日 右 泰祭 日 二 半 祭 日 三

天満 流馬 大坂 本懐祭 日 四 鹿若祭 日

送 髪祭 日 小山祭 日 福王神 祭 日 八

索 日 付村 日 野々宮乃 別 桂川の御被

霜乃 祭 日 九 月 桂蛤とある 葉乃りせ

菊 百敷 櫻く菊 大向 碑楊妃 才草 全同貫

魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚

菊 重衣 紅葉衣 霜降乃 節 九月

ツカミシ
蔵献とまの紅葉 紅葉川のお交

わさの紅 紅葉の樹 桜紅葉

りるもの あつひておれ 柘

木菱 とほくと 柘 檀 柘 まらぬのうら

のたま 柘 まらぬのうら 向膠木乃紅葉

柿紅葉 まらぬのうら いてう 紅葉 本乃紅葉

核の實 まらぬのうら 瓜栗 まらぬのうら 推

金柈 まらぬのうら 久多母 まらぬのうら 抽 まらぬのうら 佛手柈

雲外楮 まらぬのうら 中るりろ 果李乃 柘板 榧

胡桃 梨 まらぬのうら 榧 榧 榧 榧

茅乃 まらぬのうら 榧 榧 榧 榧

椋乃 まらぬのうら 榧 榧 榧 榧

實 まらぬのうら 榧 榧 榧 榧

檜 まらぬのうら 榧 榧 榧 榧

烏 まらぬのうら 榧 榧 榧 榧

つらん... 尾花... の... 元心... 草... あり

わさき... 紙草... 花... 老母草... あり

菟豆... 文豆... 油... 草... あり

豆... 綿... 赤取... 新酒... あり

子葉... 去... 紅紫... 小瀑... あり

尾... の... 網代... 衣... 袖... 霜... あり

房... 田... 肌... 板... 露... 霜... あり

... 冬... 霜踏鹿... 熊栗... あり

... 新... 衾... 秋... あり

... 暮... 秋... あり

... 冬... 住吉... あり

... 冬... 律... あり

十月... 首... 良... 折... 泰... 陽... あり

... 文... 衣... 孟... 乃... 旬... 神... 送... あり

... 冬... 元英... 上天... 去帝... 律... 檀... 羽... 音... あり

... 十月... 首... 良... 折... 泰... 陽... あり

... 文... 衣... 孟... 乃... 旬... 神... 送... あり

おりのた 燠糟と食 一日一夜の煎焚 燠炭 燠炭

燠炭 一日一夜の都の法人 亥子乃餅 十月 亥子乃餅 十月

冬立 冬立 村場 残菊 残菊

從て居る事 連平 昔 十長乃 念仏 十五日

真福寺 花舎 維广舎 十月 金比 念仏 土日

御 下元日 十月 水官 解厄

東福寺 念忌 夷議 九月 大社 神事 中

神集 出雲 神乃留主 神 神速 日 小宮 節

十月 法勝 大業 燠用 火燈 用炉 燠

相火桶 柔乃切 神風 燠 燠用 燠

此河内 松内 志 神 物箱 燠

青女 まおの 落葉 燠 木 燠

柳 燠 冬木 燠

栞 燠 栞野 燠 應 燠

蕨 燠 蕨 燠 蕨 燠

枇杷乃花 燠 桑乃花 燠 心 燠 冬松丹 燠

曆 一日 朔且冬至 十月八日湯月之キツセ 芝居 芝居

設置 一陽乃赤節 十月八日湯月之キツセ 宮源 宮源

襪 襪 履 履 桐堂 桐堂

宗像 宗像 平野 平野 春月 春月

松本 松本 當川 當川 梅 梅

宮宗 宮宗 中心 中心 松尾 松尾

大原野 大原野 園韓 園韓 吉岡 吉岡

日吉 日吉 五節 五節 長其 長其

殿上 殿上 將乃 將乃 使 使

豊明 豊明 新掌 新掌 中 中

日吉 日吉 加茂 加茂 時乃 時乃

三條 三條 御神 御神 承日 承日

里 里 神 神 承 承

小 小 忌 忌 衣 衣

ヒカケ
日蔭の糸 日かげのイト 神持乃飲 カミタビ

庭燎 ニハヒ 探物奇 サツモノキ 神持乃飲 カミタビ

井中 イナカ 小石 コイシ 張 チヤウ 張 チヤウ

千歳 チヤウサイ 早歌 ササカ 星 ホシ

御火燧 ミカヒタケ

吹草 フイカサ 御火燧 ミカヒタケ

御火燧 ミカヒタケ 御火燧 ミカヒタケ

事 コト 廿二日 ニニヒ 御火燧 ミカヒタケ 廿七日 ニチチヒ 三橋 ミハシ 市 イチ 修豆 シウマメ

宇填 ウミ 祭 マツリ 山 ヤマ 祭 マツリ 初 ハツ 祭 マツリ 寄 ヨシ 寄 ヨシ

寄 ヨシ 寄 ヨシ 寄 ヨシ 寄 ヨシ 寄 ヨシ 寄 ヨシ

寄 ヨシ 寄 ヨシ 寄 ヨシ 寄 ヨシ 寄 ヨシ 寄 ヨシ

氷 ヒヤ 氷 ヒヤ 氷 ヒヤ 氷 ヒヤ 氷 ヒヤ 氷 ヒヤ

氷 ヒヤ 氷 ヒヤ 氷 ヒヤ 氷 ヒヤ 氷 ヒヤ 氷 ヒヤ

葱 ヒヨメ 人参 ニンジン 生姜 ショウガ 姜 カウカ

將 カサ 鳥 トリ

ト女ナキ 慕 教訓草 とうけは 茶力草

近 追多將 煖多 定茶多 鯨く

妙下らぬ物 鈔 石花 松史魚 時ある

茶ぐい 聖満 生善雨 雲海 苜蓿湯 ひ

凍 雲雷 總貫 雲車 又乃 提

十月 尊皇 蟬月 冷月 大呂 極月 半月

乙亥朔日 忌火 御飯 一日六月

御神乃 御占 奏 又月 月次乃 祭 日 神 今 食

大神 祭 上卯日 天智天皇 御國 忌 日

御神乃 御占 奏 又月 月次乃 祭 日 神 今 食

御神乃 御占 奏 又月 月次乃 祭 日 神 今 食

御神乃 御占 奏 又月 月次乃 祭 日 神 今 食

御神乃 御占 奏 又月 月次乃 祭 日 神 今 食

御神乃 御占 奏 又月 月次乃 祭 日 神 今 食

御神乃 御占 奏 又月 月次乃 祭 日 神 今 食

寺の 灌頂 十音 温槽 粥 八粥 大德寺 元心 忌 日

赤宮アカミヤ 昨日 御所の林車 昨日 御所の林車

追餅ツイモチ 昨日 爆竹 五 五条天神水

あまのり 宝舟 ひんがし

いし 厄拂 吉田乃大鼓

大原里オホハラ 雑唯寢 小室 節 十二月

くひのコヒノ 神 大室 節 十二月

小晦日 おひ 除夜 年終 玉

大晦日 オホソイ 除夜 年終 玉

宗 ムネ 門松 カドマツ

とろり とろり 去らう スハラヒ

は ハ 納 ノウ 衣配 イセ ち チ 本 ホン ころ コロ 煤拂 スハラヒ

餅 モチ 箱 ハコ 棹栗賣 ササキ 星佛 ホシブツ

賣 ウレ 備菓 ツクリ 宝 タカラ 宝 タカラ 宝 タカラ

年終 トシノワケ 忌 イミ 曆 カシ 末 マタヒ 早梅 サクラハライ

八尾鱧 ヤツメ 早梅 サクラハライ

脯毒 ハサキツハキ 早咲桂 モウソクナキ 孟宗竹 モウソク 竹 タケ 竹 タケ 竹 タケ

右四節乃綱冬うらたよりうせま此うらたきさう
てうづつくちさうたとりんごも具那他御乃を
いざご子草萬花乃因乾又徳木多秋風雨霜
雪乃具名あどあらしくをまばくさるべき母を
めく候いさうらうも半れうら其物に耐節き
くあうぬも傍きこも撰乃とこ人もいさうなれど
書載ゆり乾平西要を

① 面八白

シキシキ 休紙尺取紙と書て由懐し由人

紙と所同字と嫌之但紙尺取紙尺取紙無名取紙

と取紙のとり一第三といはくくうう

後白一庭乃美さるんを字近貴人孫安老人此紙

さるくしず但千白のしら月梁まをては字近紙

らひみ何とまき共師此紙のミをくみよし

切字近をくし弟之白乃伴のびくまうん

切字近くんぢりう風物とせりてそあうま

りたれ一白乃中とり合はれく切紙を

下ノ字ハ後ニトナリテ變態ス一其申一ノ
月ハ又二ノ後ニ概テ乃ハ其ノ其ハ其ノ其
カアトト云々ト

分七ヨリハ子押マテ此処リテ月ハトクノ目然

カト一又面ノ中國字ハキリトテアトトナリカ

二ヨリトクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

裏連終トナリテ九カトナリ林祇尺高ニテ

所ニ發揚何事トモナリ六カトナリ任事ハ十カ

トナリ植物ハ破可トナリ其ハ其ハ其ハ其ハ其

乃ハ其トクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

其ハ其トクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

其ハ其トクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

裏初ノ其ハ其トクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

其ハ其トクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

其ハ其トクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

其ハ其トクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

其ハ其トクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

其ハ其トクニ是ニ其ニキリテ乃ハ其ノ其ノ

此種乃を事し、其田のゆくは、
びくは後よりふくむは、
代佐者ゆりひの亭主乃後あつと、
執筆乃あつと、
文字と讀ん

●百韻月苑定座

酉八句 七月月苑定座

子面四句 十二月月苑定座

三面十句 二月月苑定座

東古句 十月月苑定座

二東古句 十一月月苑定座

一東古句 十二月月苑定座

新面四句 三月月苑定座

百韻月苑乃句、妻執乃を、
乃一、乃一、乃一、乃一、
又、又、又、又、
又、又、又、又、

●四十四

と、と、と、と、
三、三、三、三、
三、三、三、三、
三、三、三、三、

●秋仙抄

面六句 九月月苑定座

名残面十句 十月月苑定座

土、土、土、土、
名残、名残、
土、土、土、土、

裏十句 九月月苑定座

名残裏六句 十月月苑定座

書院席可有光悦

新室ニタクは會ミふミのミ燃ヒゆミのミ心ミのミ思ミひミのミ交ミ想ミのミ心ミをミ變ミ
乃字サスラフたミ選ミじミ思ミ過ミ善ミめミのミ母ミとミうミをミあミらミくミあミみミらミま
うミ道ミはミこミがミやミうミはミ半ミ船ミ中ミのミ心ミをミあミらミせミ便ミ凡ミ
あミどミ思ミひミをミうミらミくミあミらミはミ及ミぶミ其ミ外ミのミ心ミ不ミ具ミはミ信ミ
なミどミおミのミ心ミをミうミらミくミあミらミはミ連ミ在ミ中ミのミ心ミのミ心ミもミやミめミるミ人ミ
きミとミ心ミ量ミすミ人ミ衆ミ和ミさミうミ其ミ外ミ放ミ人ミ衆ミ選ミ戒ミとミ思ミひミ
てミたミらミあミらミるミをミとミ

一出シツサチサシ症チはチ泰チ

一患チカガチ症チをチとチゆチ

一衣イ裳ヤウ法ホウをヲ念ニ際サイ不フ控コウ無ム

一雜チカク白キ禁キ白ク

一高カウ吟キン或オシ雜ザ談タン

一隣リン座ザ人ニ心シンやヤくク

一考キウ人ニ或オシ兒ニ回ヘ老ロウ吟キン坐ザ

一自ジ分フ白ハク吐トきキるル同ドウ議ギ坐ザ

一他タのノ難ナン況キョウ化カ白ハク返ヘン身シン分フ他タのノ白ハク付ツキ合カ執シツ向キョウ云ウン取ク

一自ジ分フ白ハク付ツキ心シン座ザ云ウン

一為タカ車シャをヲ引ヒキ合カ坐ザ

一末マツ座ザをヲ引ヒキ之ヲ好コト回ヘ老ロウ有ユ勢セイ力リキをヲ傳デンすス

一懸ケン眼ガンめメくクびビ等トウ

右ミナミ之ノ外ノ子シのノ法ホウ座ザ法ホウ令レイ方ホウとシいハくクとシもモあアらラるルをヲ恐オソてテあアらラるル
必カナラしシ初ハジメ学ガク乃ハ人ニ先マツちチ事コトはハあアらラるルをヲ守モリりリあアらラるルをヲ守モリりリあアらラるル

⑤ 執筆法の様

一 元来度はやく貴人キミノミヤコトの道跡ミチノアトあかしく人の世に代傳ヤクヱンをなす
 らうひつひとこれにて終るまじく又其世にさへく一々の世に
 貴方貴人少人等のありおさぬ方よりゆへにまじき難して
 扇をぬき執筆法に何とわく却て硯と丸おろし
 筆と二筆とりくし能くをん念文其れ端に却て後懐紙
 とひつゝ中二枚と区別し又わけて硯蓋又入て床など凡
 際地母のやのぬ所又まへへ一

中五七應下控
 一 硯蓋時ハ能比硯又
 一 五五下二
 一 五五下二

一 執筆法は能くしるは本人の所ありてサラナクはた安座とて
 ひと乃眼張之まへへ上りたり御細わらばな致とへ
 老若夫人の御ありてはつてもは様又是へ出之

一 懐紙とわけて他と誹諧之連紙と畫へ一 是紙ハ廢物ゆれ尤
 此後ハ六つさへ

そのもふいふれ
 若くは字近に於て 袋のわかれをうら備へて字近は多し行
 又紙納めりて又袋口を揃して名もてもて以下ゆへ
 多しといふものも又たぶくと保るるべくと云ふは其後

一 懐紙面よりく成るるをて終る貴紙一
 一 運泰人ヒ披扇ヒさる事南より打城ヒを披扇ヒとて

こゝに美人の二面も又幾多の是と後一但何宜と人
一筆とて披おるとも筆有より此之筆と物あり披
おひく一公より此の筆とて此の筆と

一美人の御衣の披おるをもあくやどてこれをきて披
おると一お人此の衣をきて座と乃人又の筆遣は良と
おとて納めをてこれをきて披おるは良と

一夢想の念の發るをわき懐帛より又其れ上又其れ
一眠りてくばその一眠とて此の懐帛とておきては良と
懐帛とておきては良と乃て一眠とては良と

よしてひくふて枕筆發るをよとて又其れ上又其れ
端は又其れ之誹諧とて其れをよとて又其れ上又其れ
服の衣をよとて其れをよとて又其れ上又其れ
とて其れをよとて其れをよとて又其れ上又其れ
おれを枕筆發るをよとて其れをよとて又其れ上又其れ
一美人の衣とて其れをよとて其れをよとて又其れ上又其れ
御衣の衣の衣令七白は物ありとも五白とて其れをよとて
て美人御衣の衣の衣をよとて其れをよとて又其れ上又其れ
肝要の指合をよとて其れをよとて又其れ上又其れ

執事乃四海より

一執事ハ各藩一太守ハ其の之其席乃無任其也執事決

弟又ハ其の之其志也

二而ハ其の之其志也

懐帝面ハ其の之其志也

のハ其の之其志也

懐帝とオカトクハ其の之其志也

懐帝一執事ハ其の之其志也

り下ハ其の之其志也



